

## 研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名：新規ゲノム再編成技術と長鎖DNA合成を活用したゲノム改修技術の開発

2. 研究代表者：太田 邦史（東京大学大学院総合文化研究科 教授）

3. 中間評価結果

当初の計画を含め、既に多くの成果があがっている。TAQingの方法を発展させて、より強力な技術を開発している。TAQing法によってゲノム再編成を誘導した後に表現型と遺伝学的解析を行うアプローチは新しく、これまでにない発見を伴う研究成果が期待される。酵母や哺乳類細胞を用いた研究は、既に実用的な成果が出始めている。また、線虫のTAQingから人為的な疑似的種分化を誘発させるアプローチは極めて新奇性が高く、今後の進展が楽しみである。これらの成果から、ゲノム進化や種分化に関する重要な知見が得られることが期待されるため、追加で適切な支援が必要である。一方、分担研究者の成果が見えにくく、その点は抜本的な改善が必要である。

以 上